

大和文華館の生立(その4)

おいたち

大和文華館館長
石澤正男

近鉄を利用する沿線の人々のためばかりでなく、広く国の内外から古代日本文化に憧れて奈良を中心とする近畿の地域に足を運ぶ大勢の人々のため、次元の高い文化施設を創立したいという元近鉄社長の種田さんの発想が早く戦前からあり、たまたま種田さんがかねてから優れた同窓の後輩として敬愛していた矢代幸雄（本館初代館長）さんが官途を退かれたことを聞き、ご自分の漠然とした発想を立派に具象化してくれる人物はこの人物以外にないと判断されて逸早く協力と援助の手を差し延べられたことは前号に書いた通りです。しかし当時は大東亜戦争が始まってからすでに9ヶ月を経、開戦当初の大戦果につぐ大戦果で国民の熱狂的興奮は6月のミッドウェイ海戦での敗北が正しく報道されたならば一挙に冷めたでしょうが、大本営の発表はいつも戦勝だけを誇大に報道し、敗戦は極度の虚飾的過小報道でごまかされていたため、国民一般はいつもつんぼ棧敷におかれたまま戦争のために一切を犠牲にしていたのです。しかし戦況の実情に近い情報をつかんでいた人々はミッドウェイ海戦で日本人が最も頼りにしていた日本海軍

の蒙った敗戦の打撃はいかに深刻なものであり、従ってその敗戦が将来の戦況にどんな影響を及ぼすかを痛切に憂慮されていたようです。種田社長が年来胸裏に抱かれていた高級な文化施設の実現に備えて自由な身分となられた矢代先生を迎えられたのはミッドウェイ海戦を契機に戦況が著しく日本に不利に傾き始めた時でした。こんな時にも拘らず遠い将来のために種田社長が真先に矢代先生に温い手を延べられたことは種田社長の友情に厚く、また人を見る目



故藤井正専務

と機を逸さない俊敏な面目が躍如とされているように思われます。

戦況は次第に悪化するばかりでした。従って戦時中は将来の大和文華館のためになる積極的、建設的なことはできなかったのは当然でしたが、次のエピソードは私にとっても非常に感銘の深いお話なので、ここで皆さんにもお伝えして置く次第です。

それは数年前、当時近鉄の副社長で大和文華館の理事のお一人であった永岡孝二氏が当社のご自分の部屋で私にして下さった懐旧談であります。永岡さんのお話は大体次のような内容のものでした。

「もう大和文華館も今では立派な美術館として国内ばかりか、海外からの来訪者も相当多いようですが、あそこまで漕ぎつけるには随分苦労も多かったのもあたりまえですが、私にとっては今でも忘れるどころか、鮮やかに記憶に残っていることが一つあるのです。それが時もあるうに大阪がB29の大空襲を受けている最中のことでした(注・昭和20年3月14日)。私たち社員はもちろん防空服に身をかため大勢が屋上に立って防火態勢をとっていた時です。当時私は会計部長をしていましたが、急に上司の藤井専務(名は正、昭和28年7月11日物故さる)から呼ばれたのでお部屋に伺うと、専務は一通の手紙を手にしておられ、これは実は矢代先生から来たお手紙なのですが、京都で有名な美術蒐集家のI家が蔵書を一括してなるべく早く処分したいので、この際は是非近鉄で引きとってあげて欲しい。将来種田社長が建設を希望しておられる文化施設がどんなものになるか、今のところ判らないが、それがどんな性格のものになるにしてもI家の蔵書ほど纏った美術書の揃っているものは他にはないのだから、なんとか種田社長にお願いしてこの際至急金を工面してもらいたい。君なんとか都合をつけてくれませんか。社長はもちろんご賛成なのだ、というお話なのです。私もその頃は若くもあり大空襲のさなかのことで興奮もしていたので『折角の専務のお言葉ですが、今げんに砲兵工廠が爆撃されボンボン燃えている最中です。こんな

非常時に図書購入などという不急のものに出せる金などありませんよ。かりに金があったとしても、私ならその金で全部芋を買って社員の食糧不足を補いたいと思います。』と威勢よく啖呵をきって、また警戒陣に戻りました。しかし帰宅して冷静に一晩考えてみると、軍部は本土決戦など国民を激励しているが戦況がここまででは敗戦はもう差しせまっている時の問題だ。吾々としては戦後のことを考える段階に来ているのだ。今日の専務のお話はその意味で考



永岡孝二氏

え直すべき問題であると反省し、翌日出社して早速藤井専務に昨日の暴言のお詫をし、『幸い先方の要求される金額も都合がつかますから、社長と矢代先生に宜しくお伝え下さい。』と申し上げました。専務は喜んで、ではできるだけ早く現物を安全なところへ運搬する手配をするように命じられましたが、当時はトラック一台動かせず、漸く苦心の結果牛車を探しだし、それで運搬したものです。そのI家の蔵書が今でも文華館の蔵書の核心となっているようで、それを伺って私も大いに慰められています。 (つづく。50・5・10)